参考ｆ_地歴に関する資料

S20-25

航空写真

参考ｆ_地歴に関する資料

S36-44

航空写真

参考ｆ_地歴に関する資料

S49-53

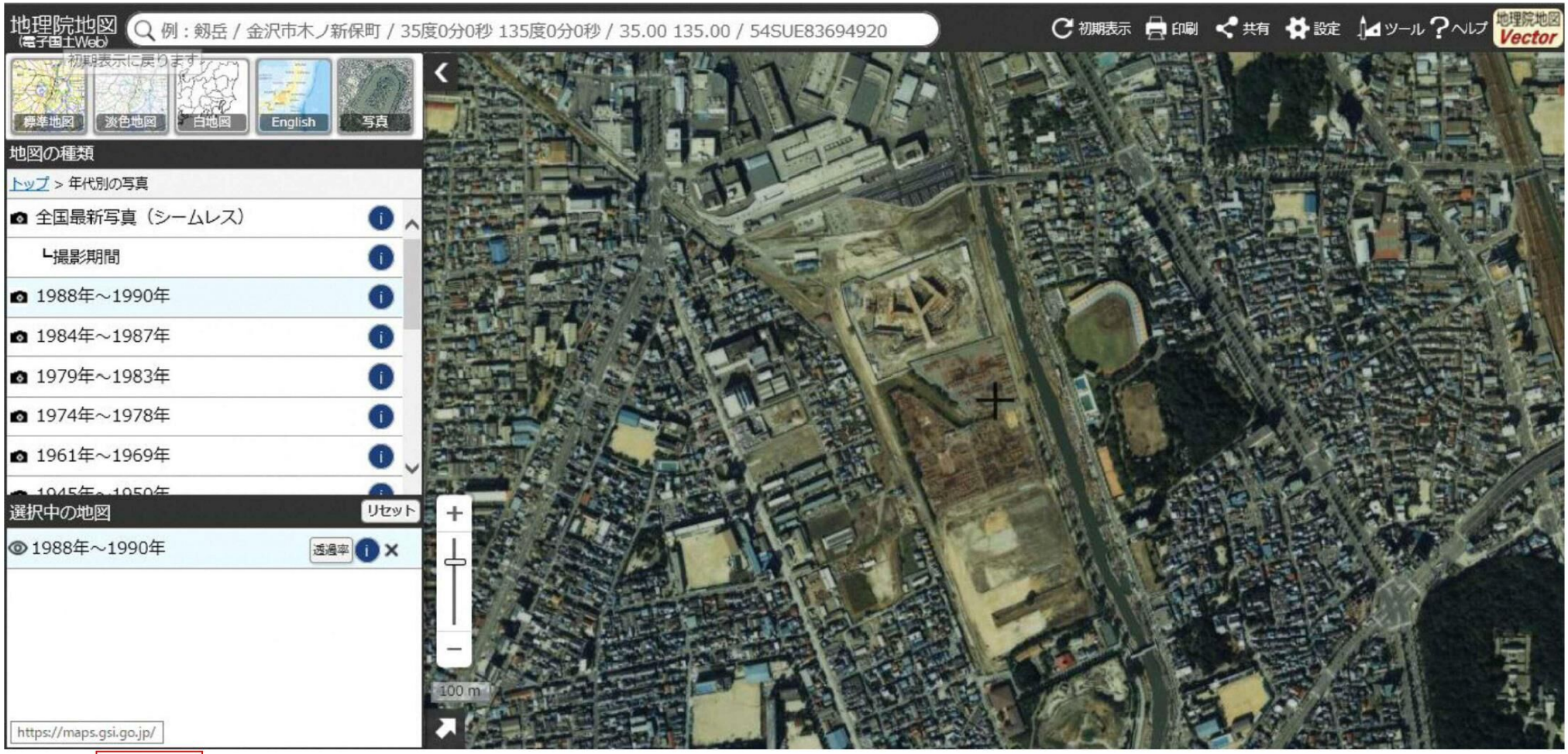
航空写真

参考ｆ_地歴に関する資料

S54-58

航空写真

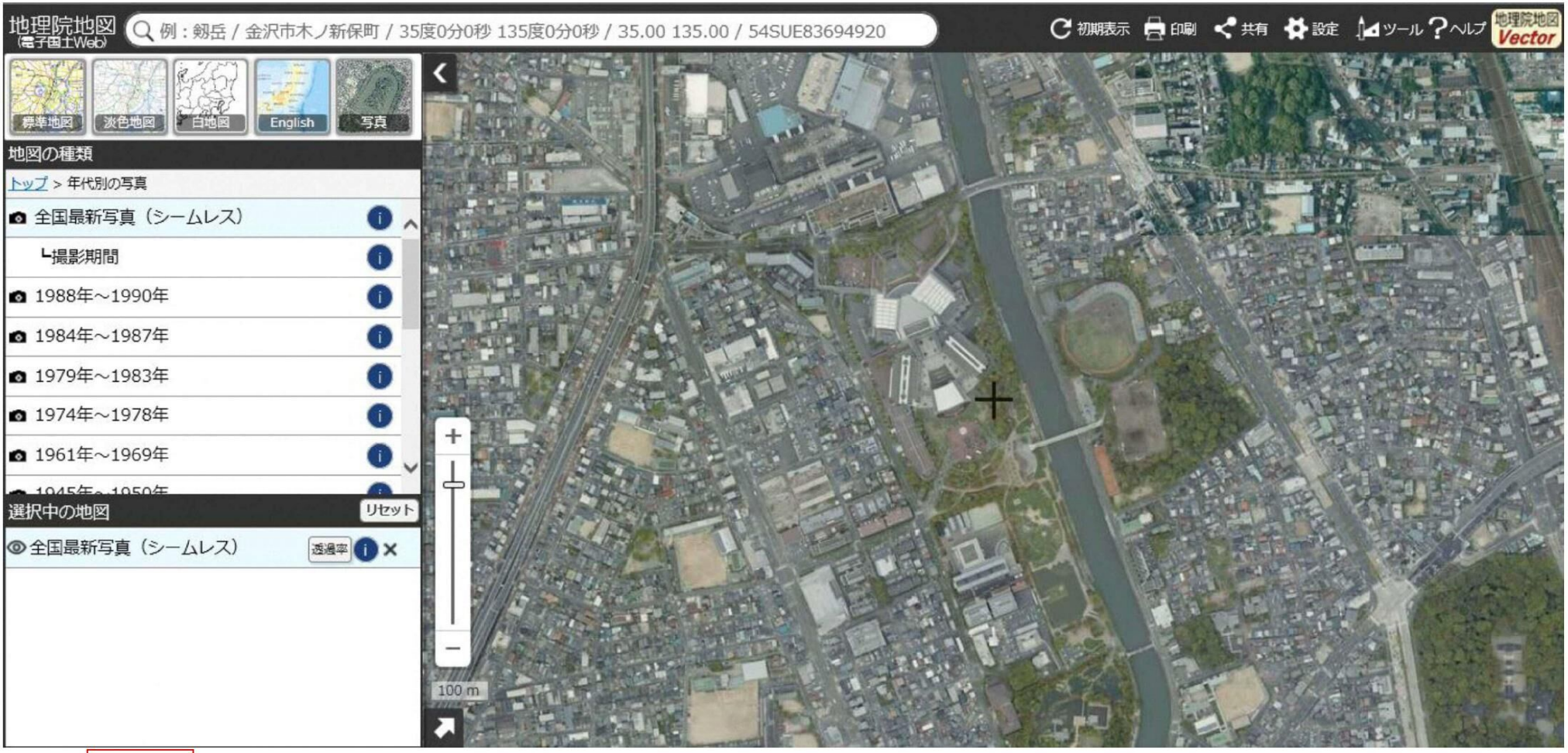
参考ｆ_地歴に関する資料



S63-H2

航空写真

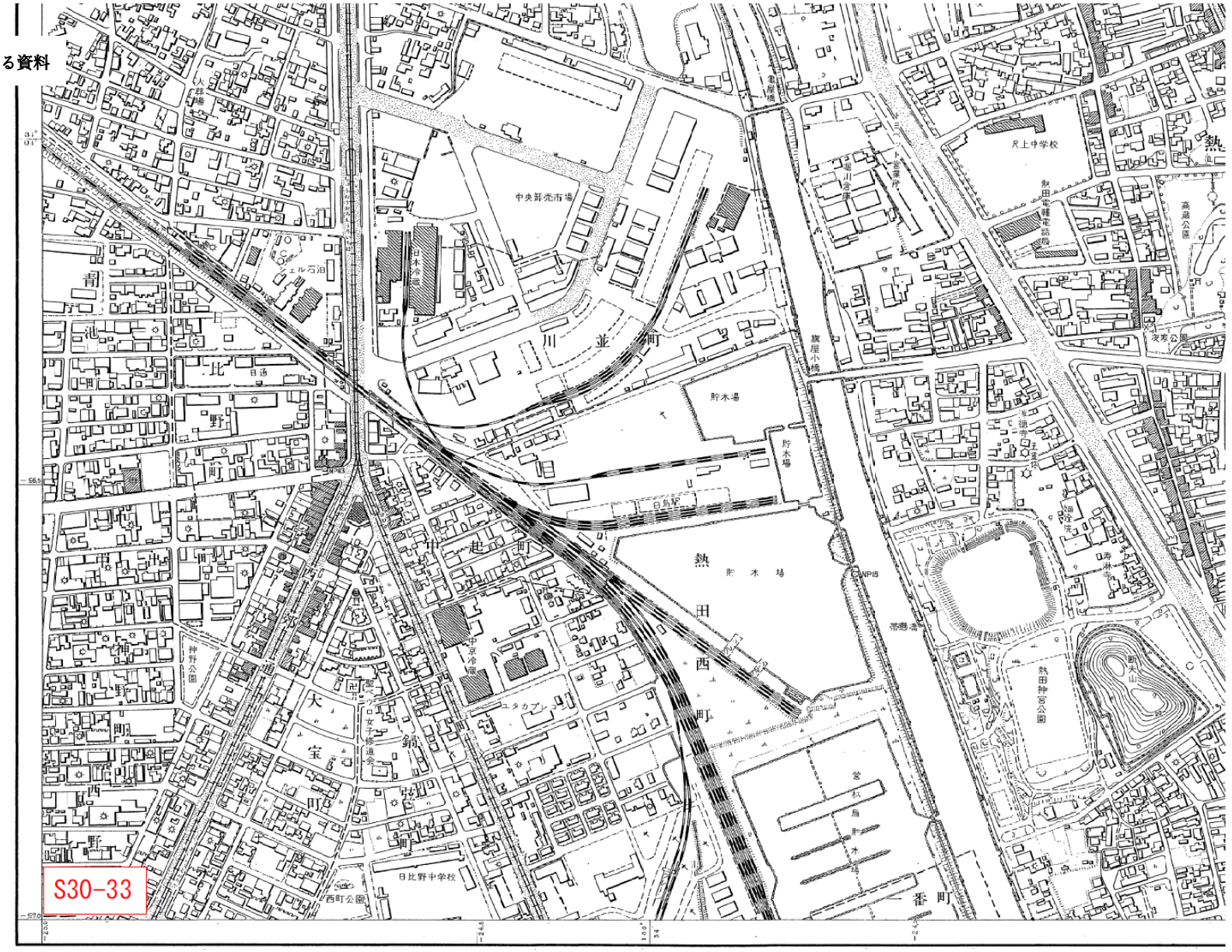
参考ｆ_地歴に関する資料



最新

航空写真

参考ｆ_地歴に関する資料



(1)	1. (1) 昭和三十年十二月撮影空中写真(C8 122-125)
(2)	(2) 昭和三十年十二月撮影空中写真(C9 237-240)
	2. 昭和三十三年五月現地測量及調査

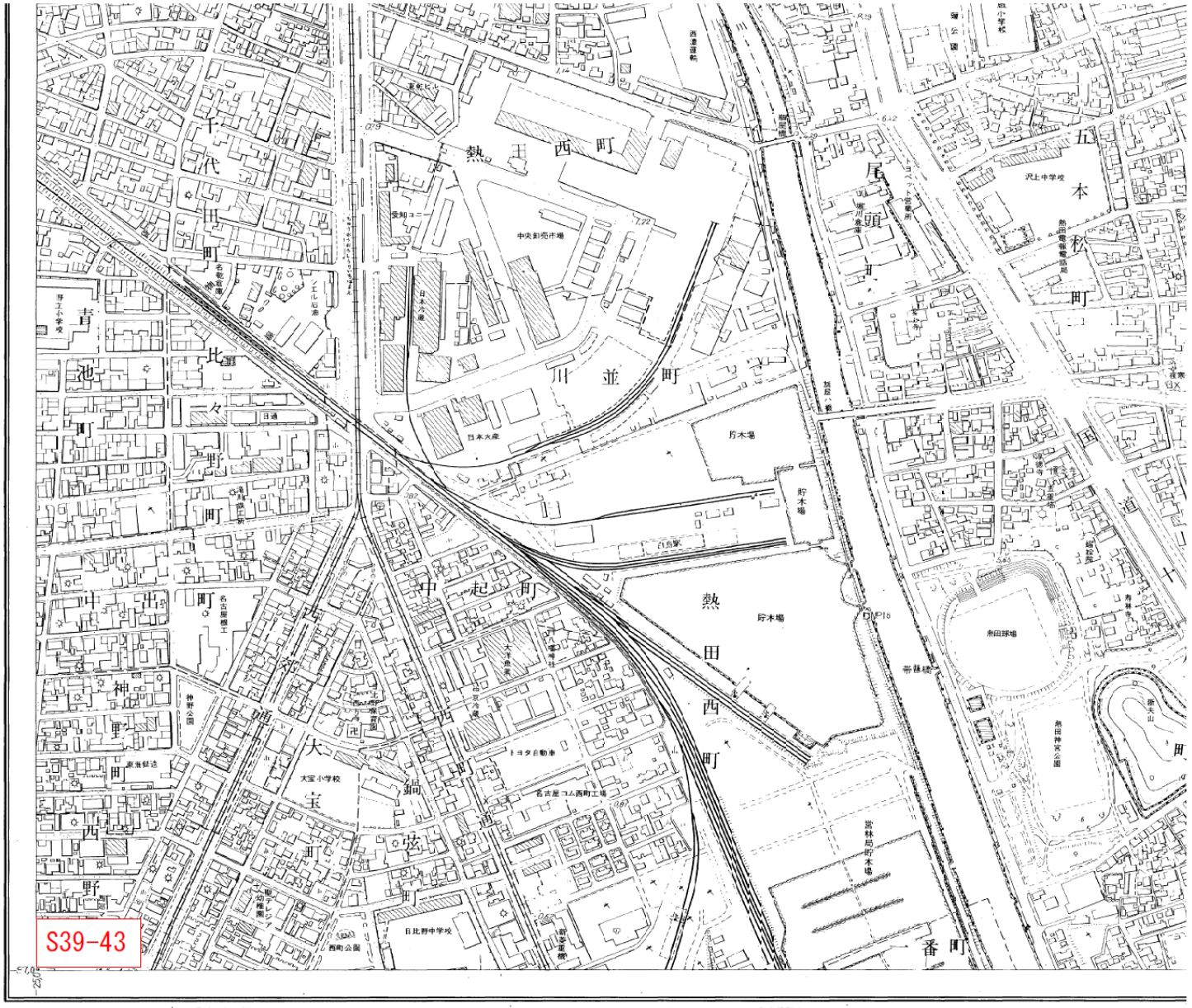
高須賀町	上前津	河由知通
篠原町		桜山町
玉船町	熱田神宮	新瑞橋

1. 投　影　：ガウス等角投影法
2. 基 準 点　：地理調査所の三角点水準点
3. 等高線の間隔：平地1m丘陵地2m
4. 測　図　：ステレオプラニグラフC8、ステレオプロッターA8(等高線は一部実測)
5. 図　式　：地理調査所の図式及特別に定められたる図式
6. 方　眼　：国土調査法に依る第七座標系を基準とする五百米間隔

0　100
0　1

都市計画基本図変遷

参考ｆ_地歴に関する資料

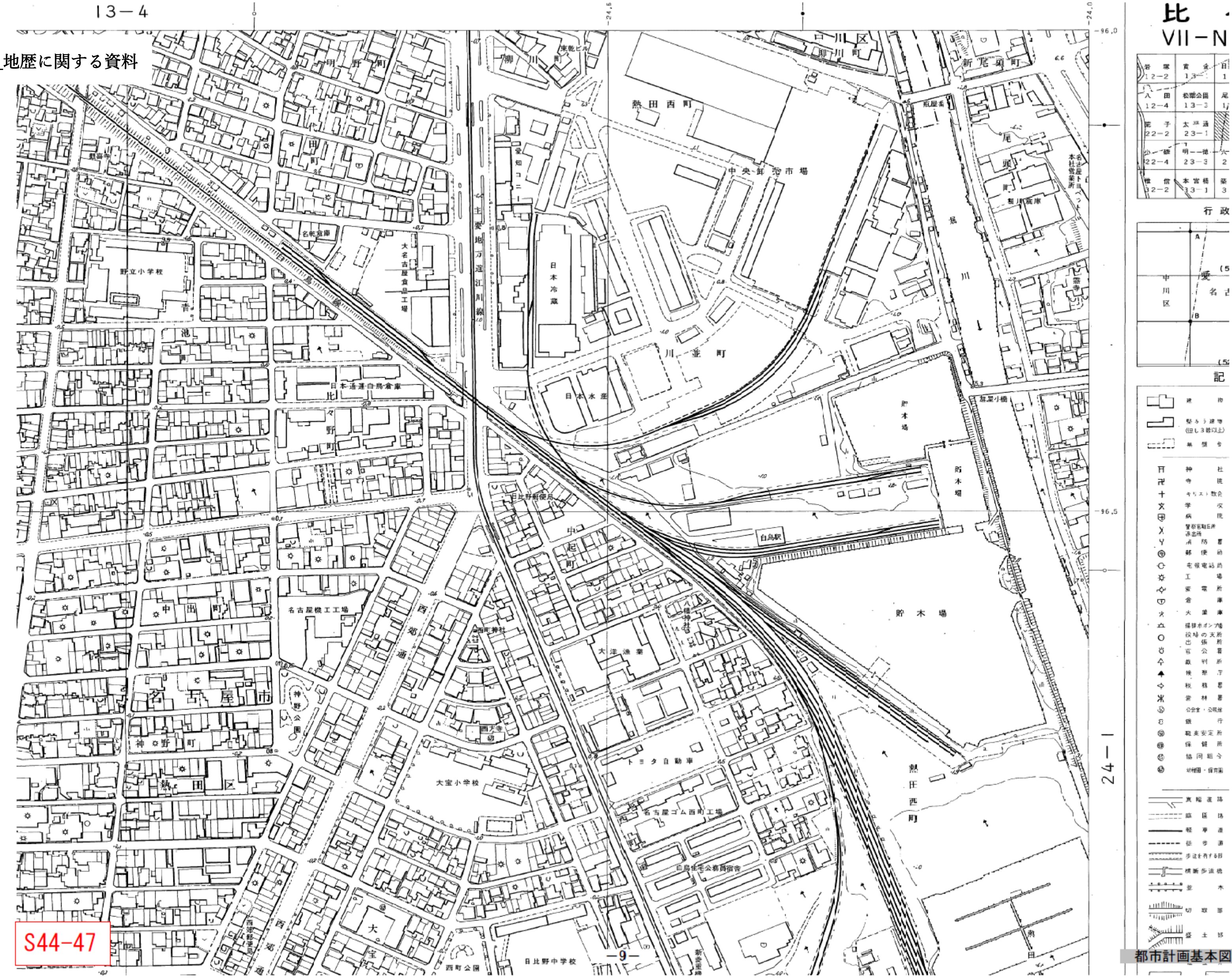


1. 昭和四十二年七月撮影空中写真
2. 昭和四十二年八月現地測量及び調査

1. 投　　影：ガウス等角投影法
2. 基　準　点：国土地理院の三角点水準点
3. 等高線の間隔：平地1m丘陵地2m
4. 測　　図：オートグラフA−7
5. 図　　式：国土基本図図式及び特別定めらたる図式
6. 方　　眼：国土調査法に依る第七座標系を基準とする5Cm間隔

都市計画基本図変遷

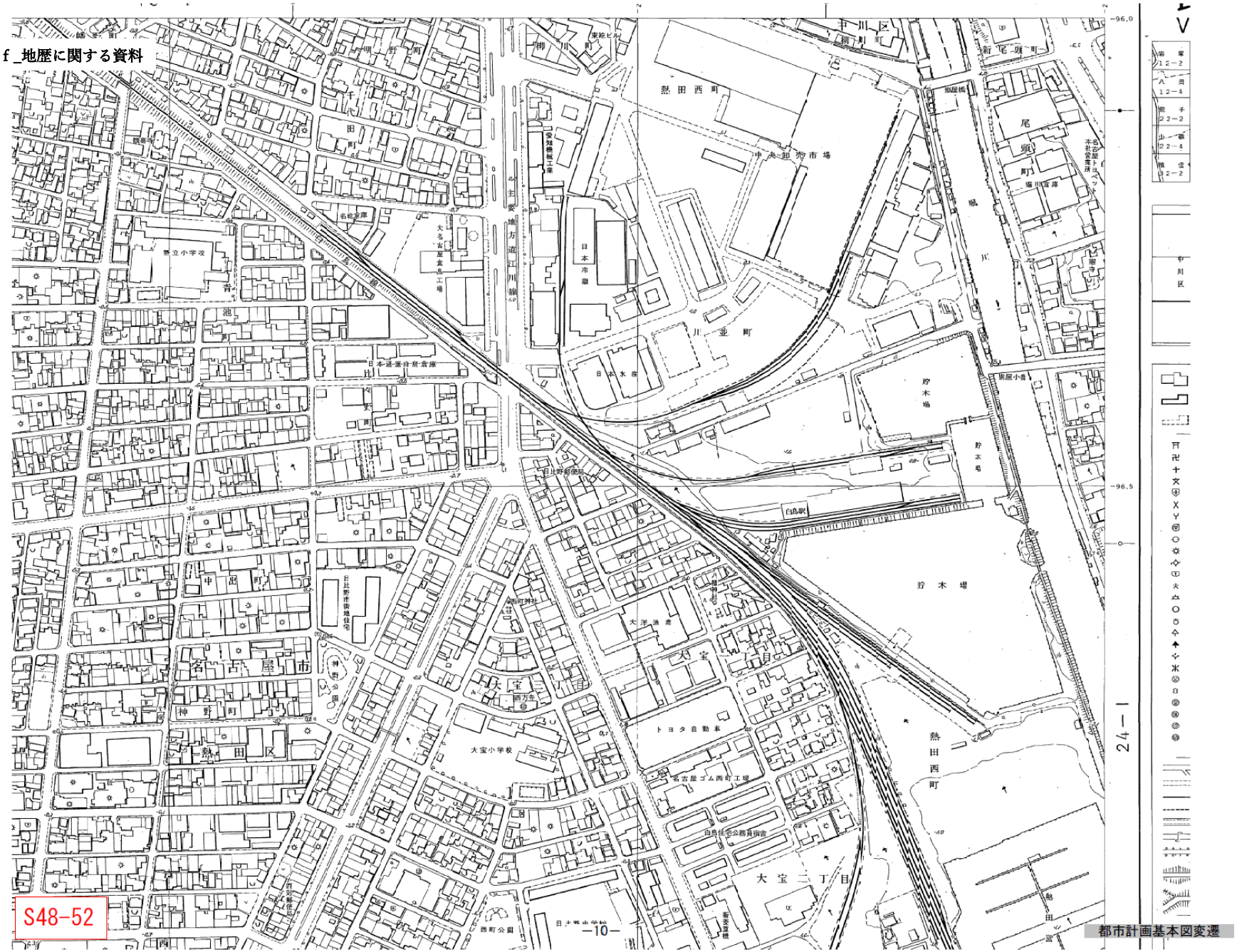
参考ｆ_地歴に関する資料



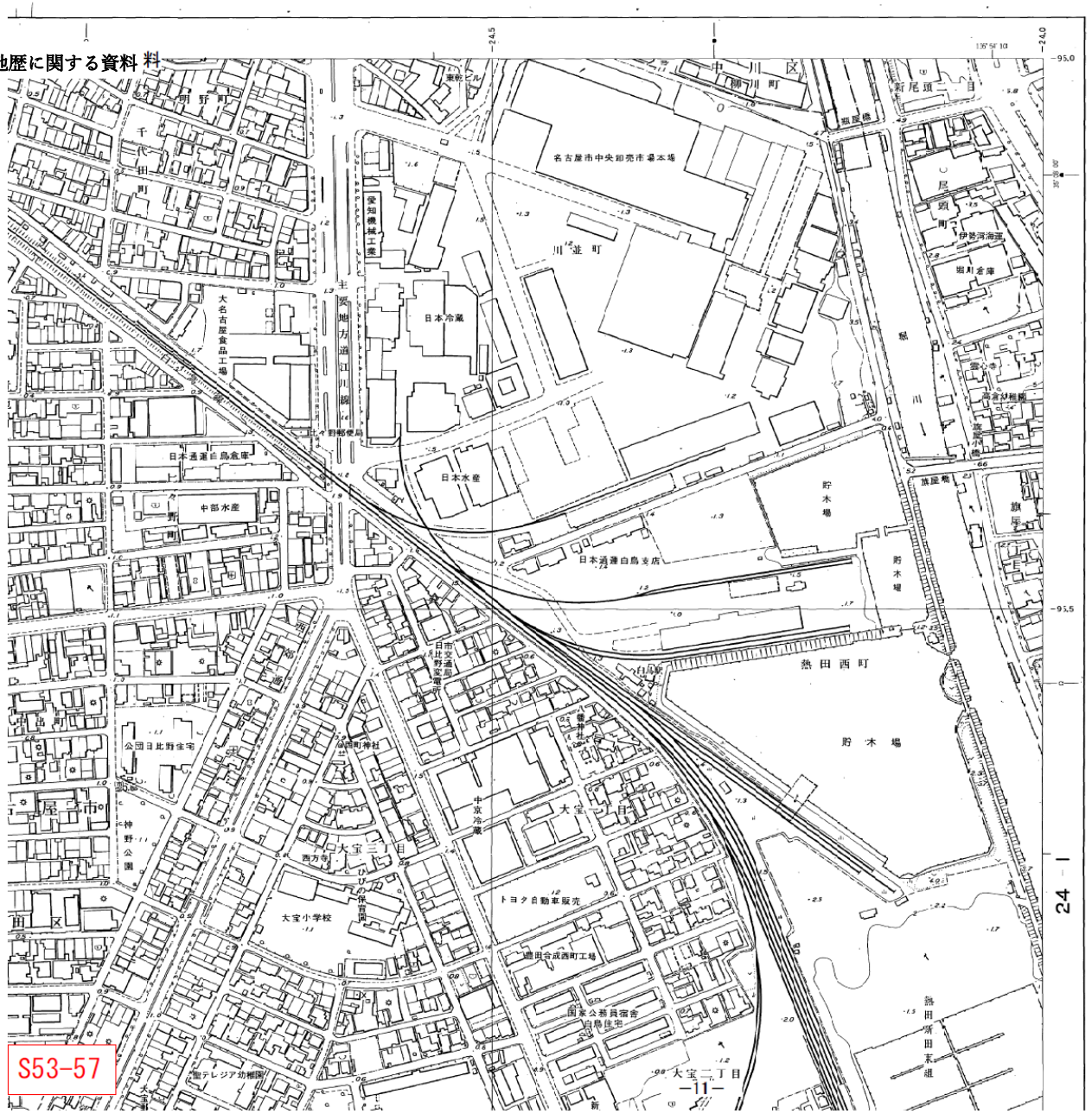
S44-47

都市計画基本図変遷

参考ｆ_地歴に関する資料



参考ｆ_地歴に関する資料 料



比　々　野

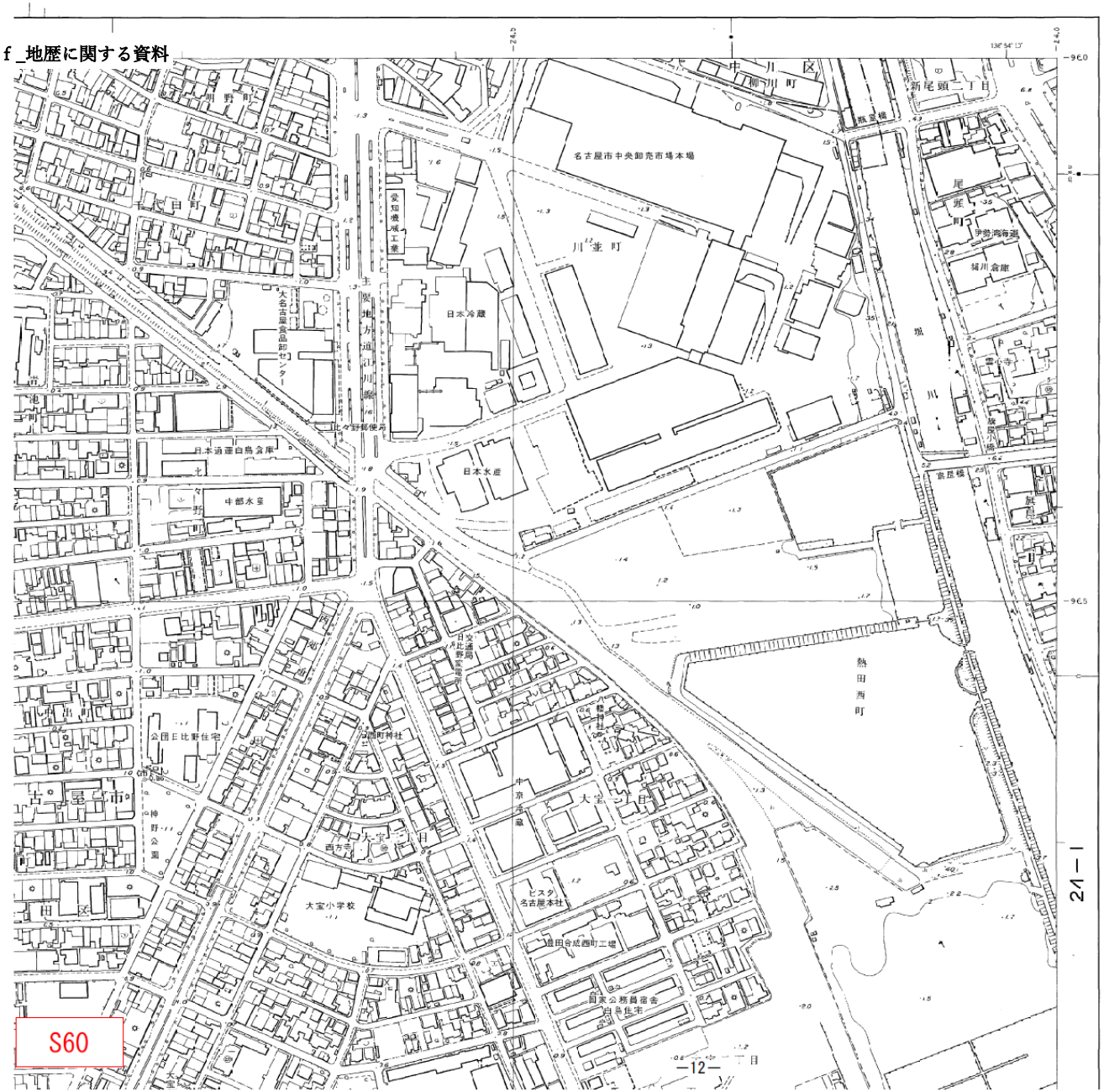
VII－ND 23－2

行政区画

記号

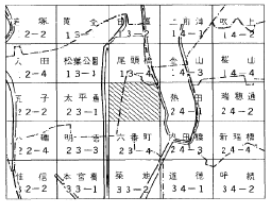
都市計画基本図変遷

参考ｆ_地歴に関する資料

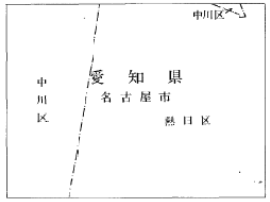


比々野

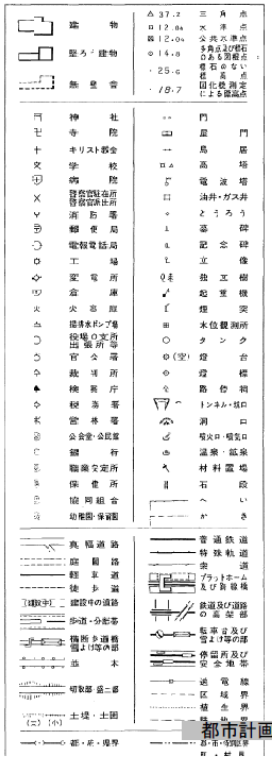
VII－ND 23－2



行政区画

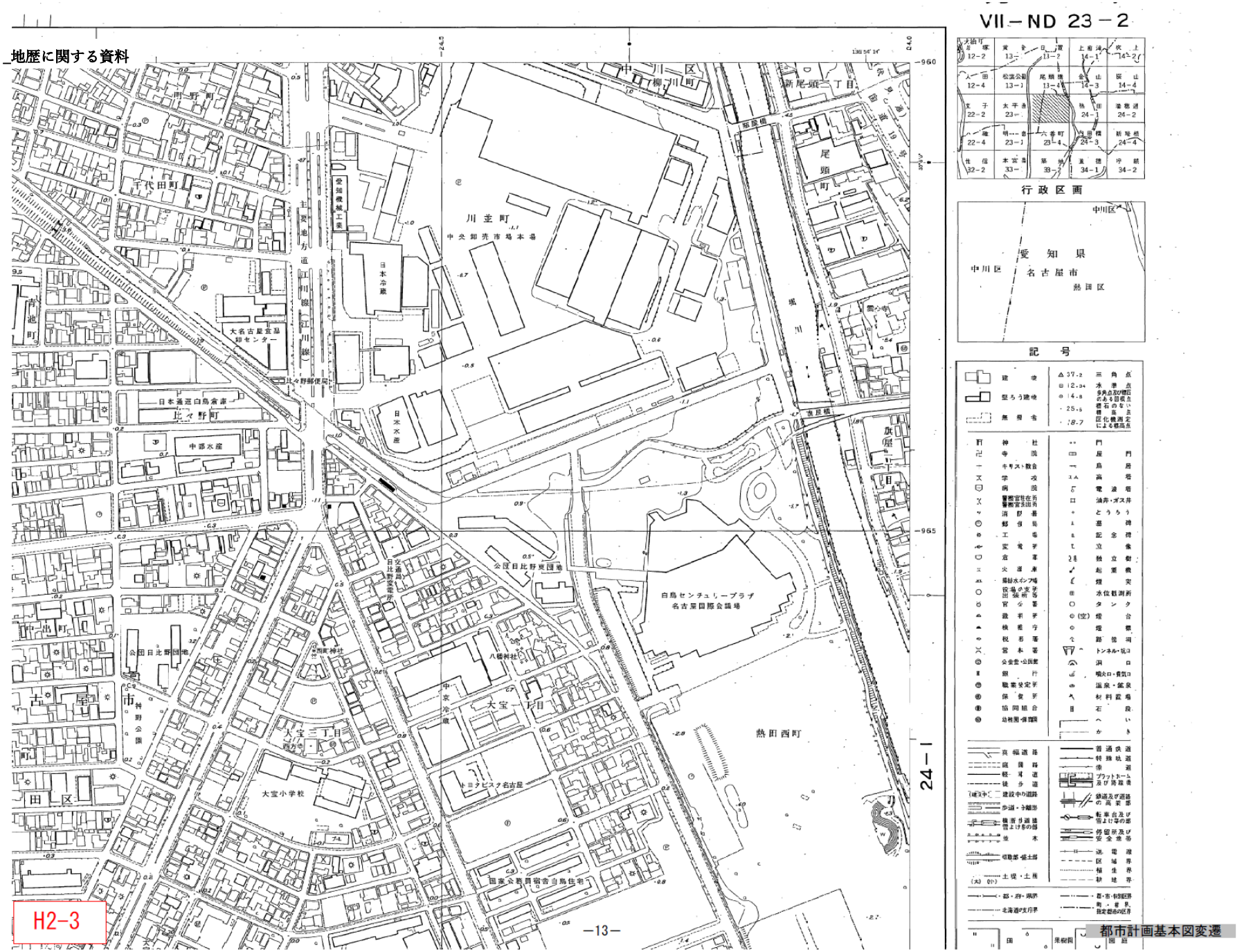


記号



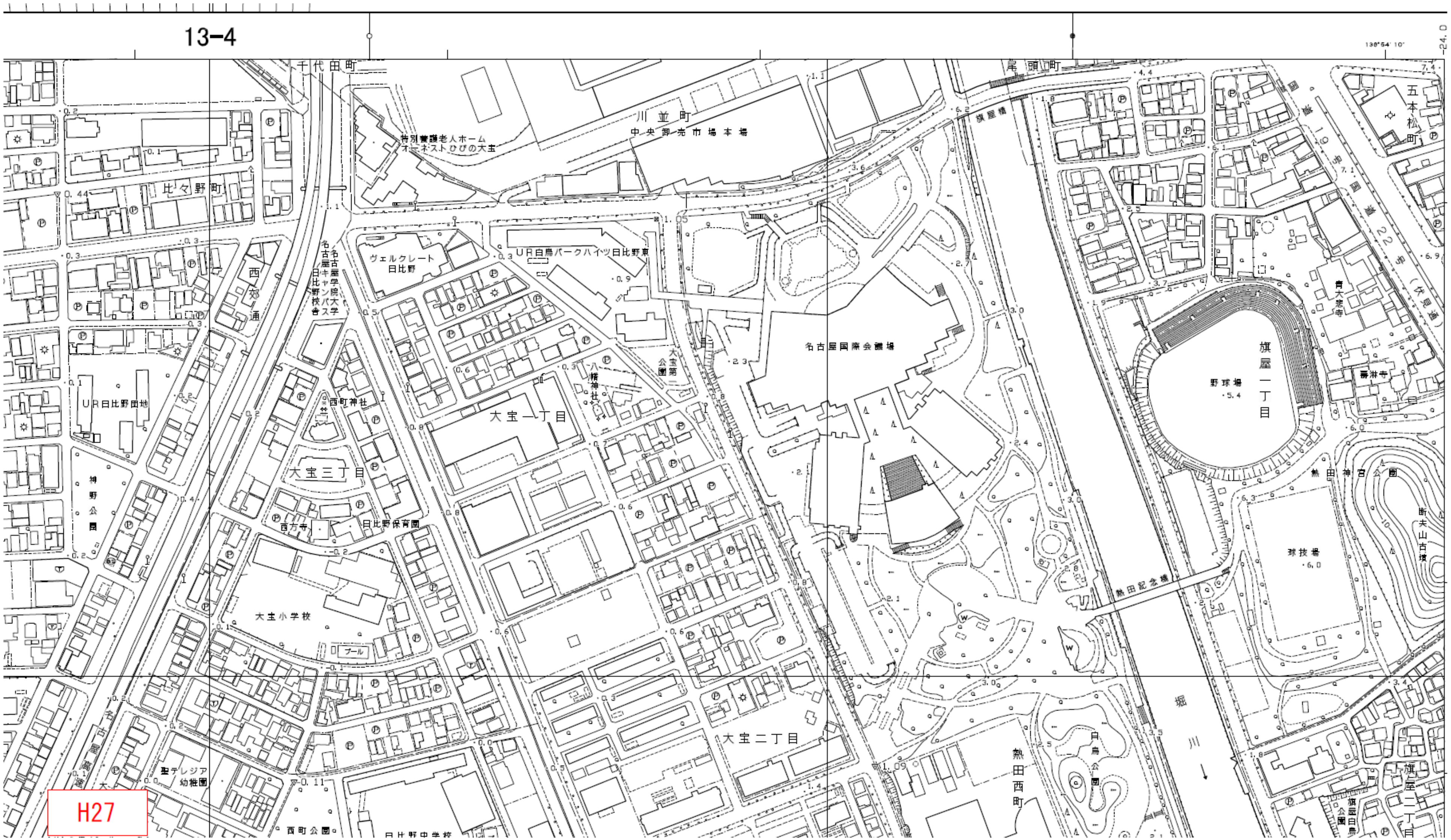
都市計画基本図変遷

参考ｆ_地歴に関する資料

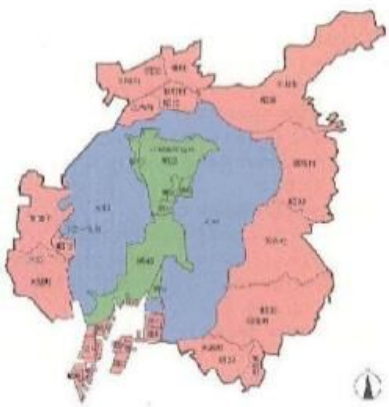


参考ｆ_地歴に関する資料

参考ｆ_地歴に関する資料


13-4
千代田町
尾頭町
川並町
中央卸売市場本場
特別養護老人ホーム
オーネストひびの大宝
比々野町
五本松町
ヴェルクレート
日比野
UR白鳥パークハイツ日比野東
名古屋日比野キャンパス
名古屋学院大学
西町神社
大宝一丁目
大宝三丁目
八幡神社
大宝第二公園
名古屋国際会議場
野球場
旗屋一丁目
青大悲寺
熱田神宮公園
断夫山古墳
球技場
熱田記念橋
UR日比野団地
神野公園
西方寺
日比野保育園
大宝小学校
プール
大宝二丁目
熱田西町
白鳥公園
堀川
聖テレジア幼稚園
西町公園
日比野中学校
H27

参考ｆ_地歴に関する資料



市域の変遷図

さて、熱田区が誕生した昭和12年（1937）とは、どんな年だったのでしょうか？

日中事変（盧溝橋事件）がおき、日独伊三国防共協定が調印されるなど、世界大戦に進んでいた時期です。

名古屋市では、戦前の日本で開かれた最大の博覧会「汎太平洋平和博覧会」が開催されました。さらに、東洋一と謳われた旧国鉄名古屋駅の完成、これも東洋一と言われた東山動植物園の開園、桜通の開通、旧国鉄中央線鶴舞駅の開設、市電の「東山公園ー築地口」間の延長などがありました。

熱田区では、六番の地に、名古屋の中小企業の技術革新を支えることとなる名古屋市工業指導所（現工業研究所）も創設されました。

ものづくりのまちとして活況を呈し、名古屋の繁栄を支えていた熱田ですが、戦中、軍需関連工場が多くあったこともあり、空襲によって大きな被害を受けました。多くの命が失われ、貴重な文化財もその多くを焼失しました。戦後、復興都市計画を受け、東西に国道1号、南北に国道19号が整備されるなど、戦災とその後の復興事業（土地区画整理）で、熱田はその姿を大きく変えることとなりました。

戦災焼失区域

熱田空襲

参考ｆ_地歴に関する資料

焼失してしまった区役所も、区民の有志による「熱田区役所復興委員会」が組織され、区民の皆様の寄付と市費によって、昭和22年（1947）12月、玉の井町に木造2階建ての区役所庁舎を建設移転しました。

昭和24年（1949）には、寛永10年（1633）以来の歴史を有する「熱田魚市場」が整理統合され、中央卸売市場（本場）も開設しました。

復興都市計画

玉の井町の庁舎（昭和22年から昭和34年）

昭和34年（1959）、名古屋市は**「市制70周年」**を迎えました。市民のシンボル「名古屋城」も再建竣工されました。

同年9月26日、伊勢湾台風の襲来がありました。古来、熱田の地は、中央が熱田台地、西は堀川以西の低地、東は新堀川（旧精進川）流域の低地、南は熱田港（湊）で、繁栄の反面、幾多の災害に遭遇してきましたが、伊勢湾台風は、貯木場からの材木の流出も相まって、史上最大の被害をもたらしました。

この日は、旗屋二丁目に、鉄筋コンクリート造・地上4階・地下1階の先代の区役所庁舎が完成移転した日に当たりました。竣工式早々、災害対策と避難者の方を収容する施設となったという歴史があります。

伊勢湾台風（南一番町）

参考ｆ_地歴に関する資料

旗屋二丁目の庁舎（昭和34年から平成13年）

昭和39年（1964）、東海道新幹線の開業、東京オリンピックの開催、昭和45年（1970）、大阪での日本万国博覧会の開催と、日本が高度経済成長期を迎える中、名古屋市は、昭和44年（1969）、**「名古屋市制80周年」**を迎え、人口200万人を突破しました。昭和37年（1962）に科学館、昭和47年（1972）に市民会館、昭和52年（1977）に博物館がオープンしました。

熱田区では、昭和44年（1969）、六野に名古屋市体育館が開館しました。昭和46年（1971）、地下鉄「金山―名古屋港」間が開通し、日比野・六番町の両駅が設けられました。昭和49年（1974）には、地下鉄「金山―新瑞橋」間が開通し、西高蔵・神宮西・伝馬町の各駅が設けられました。

昭和54年（1979）からは、「神宮東地区総合整備事業」がスタートしました。（平成8年度まで）

昭和58年（1983）には、「時の鐘」が宮の渡し公園に復元されました。「時の鐘」は、寛永2年（1625）に犬山城主の成瀬正虎が、熱田湊（宮の渡し）に設置した由緒あるものです。

時の鐘と常夜灯（宮の渡し公園）

昭和59年（1984）、熱田社会教育センター（生涯学習センター）開館。昭和60年（1985）、秋葉アンダーパスが竣工しました。

昭和62年（1987）3月には、堀川に架かる御陵橋が竣工、そして、同年10月、**「熱田区制50周年」**を迎えました。区制50周年を記念し、熱田区のシンボルマークも決定されました。

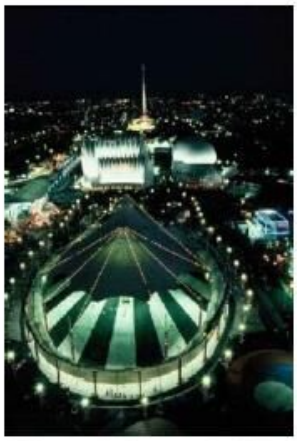
熱田区のシンボルマーク（昭和62年3月30日制定）
＜アツタの"ア"をデザインしたもの。上部の矢先で区の発展を、下部の円形で区民の連携と和を表す。＞

続いて、平成に入ってからの熱田区に関係する主な出来事を見てみましょう。

参考ｆ_地歴に関する資料

平成元年（1989）、**「名古屋市制100周年」**の年に、白鳥会場をメイン会場として、「世界デザイン博覧会」が開催されました。

この地の歴史は、名古屋城築城に際し、福島正則が堀川を開削するに当たって掘られた大池（「太夫堀」）に遡ります。（慶長15年（1610）堀川開削着手から寛永6年（1629）白鳥貯木場完成。）



デザイン博白鳥会場（夜間開催）

市制100周年熱田区記念事業の実施に合わせ、熱田区の「区の木（クロガネモチ）、区の花（ハナショウブ）」も決定されました。

区の木（クロガネモチ）

区の花（ハナショウブ）

平成元年（1989）3月　熱田記念橋竣工

平成元年（1989）7月　金山総合駅オープン

平成元年（1989）7月　世界デザイン博覧会開催（7月15日から11月26日）

平成 2年（1990） 4月　国際会議場オープン

参考ｆ_地歴に関する資料

平成 3年（1991） 4月　白鳥庭園開園

平成 6年（1994）10月　国際会議場全館供用開始

平成 9年（1997） 1月　堀川プロムナード「白鳥橋ー御陵橋」間完成（熱田記念橋上流は8月完成）

平成 9年（1997）10月　**「熱田区制60周年」**

平成11年（1999） 2月　名古屋市ごみ非常事態宣言

平成11年（1999） 2月　金山南ビル竣工　（全日空ホテル、ボストン美術館、都市センター）

平成12年（2000) 9月　東海豪雨

平成13年（2001)10月　**熱田区役所等複合施設（区役所･図書館･文化小劇場）**　完成移転

竣工当時の熱田区役所庁舎（平成13年から）

平成14年（2002）　白鳥地区総合整備事業終了（昭和62年（1987）から）

平成16年（2004）10月　地下鉄名城線環状化

平成17年（2005） 2月　中部国際空港開港

平成17年（2005） 3月　愛･地球博覧会開催（3月25日から9月25日）

平成18年（2006） 4月　南養護学校が三本松町へ移転

平成19年（2007） 1月　名古屋学院大学日比野キャンパス完成移転

平成19年（2007） 4月　名古屋学院大学白鳥キャンパス完成移転

平成19年（2007）10月　**「熱田区制70周年･旧熱田町名古屋市編入100周年」**

平成22年（2010） 9月　高速道路4号東海線「山王JCTー六番北」間開通

平成22年（2010）10月　生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が国際会議場で開催

平成25年（2013）11月　高速道路4号東海線「六番北ー木場」間（全線）開通

平成26年（2014）11月　持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議（ESD）が国際会議場で開催

平成に入ってからの出来事も多岐にわたります。とりわけ、近年の都市整備の契機となったデザイン博の開催とその後のまちづくりが印象に残ります。

そうした中、名古屋学院大学の移転開学は、熱田区にとって大きなものであったと思います。地域防災への積極的な関与や、南熱田荘の自治会インターンシップ事業、"あつた宮宿会"の活動をはじめとするまちの魅力づくり等々、地域課題の解決に向けて、名古屋学院大学との連携協力（「地（知）の拠点整備事業」（COC事業））は欠かせないものとなっています。

以上、手持ちの資料を使って、限られた範囲で駆け足で見てきましたので十分でないところもあるかと思いますが、"熱田"の地が、いかに多くの歴史を持っているか、改めておわかりいただけると同時に、歴史が重層的に存在している、過去の歴史が今に繋がっていることを感じていただけると思います。

去る10月7日、区民の皆様とともに記念すべき節目の年を祝い、にぎわい･交流のある魅力あるまちづくりを進めるため、80周年記念事業の実行委員会を立ち上げました。

80周年記念事業実行委員会

参考ｆ_地歴に関する資料

その頃の熱田の産業は、一つは、区長の部屋（4月）に書いたとおり「熱田魚市場」を擁し、漁業と海産物加工業がありました。

もう一つが、木材加工業とそれに伴う商取引です。そこには、尾張藩が木曽の木材を集積するためにつくった「白鳥貯木場」の存在がありました。

木曽の御用林は切り出された後、木曽川―伊勢湾―堀川を経由して、名古屋の城下町に運ばれました。その際、堀川の下流、熱田湊（宮の渡し）からおよそ800メートルの地点にあった「白鳥貯木場」一帯で、集積、製材されました。

白鳥貯木場は、慶長15年（1610）、名古屋城築城に際して福島左衛門太夫正則が堀川を開削するにあたり、材木置場や船置場として掘られた大池が始まりです。福島正則の官名にちなんで、「太夫堀」と呼ばれていました。

かつての白鳥貯木場（中部森林管理局）

明治時代になると、産業都市としての名古屋の基盤整備が急速に進みます。明治19年（1886）、後の東海道線（「新橋ー神戸」間、明治22年･1889開業）に先立って、武豊線「熱田―武豊」間が開業し熱田駅が誕生しました（明治29年に現在地に移転）。また明治38年（1905）から5年をかけて、「新堀川（精進川）」の大改修も行われました。

都市基盤整備を背景に明治中頃以降、熱田周辺では「白鳥貯木場」の存在で原料資材としての材木が豊富にあったことから、特に"木材"にまつわる産業、"時計"や"鉄道車両"、"航空機"をはじめとする近代産業が発達しました。

時計の材料には良質な木材が使われていましたし、初期の鉄道車両は丈夫で軽い良質な木材で組み立てられていました。黎明期の航空機もプロペラや機体、水上飛行機のフロートなど、木製品（合板）で組み立てられていました。

明治20年から30年代以降、愛知時計製造（現･愛知時計電機。後に愛知航空機(現･愛知機械工業)が同社から独立）や、尾張紡績、愛知セメントが設立されました。日本車輌製造も熱田の地に移転し、名古屋瓦斯（東邦ガス）や日本碍子も設立されました。

明治37年（1904）、日露戦争開戦の年には、六ツ野に東京砲兵工廠熱田兵器製造所（後の名古屋工廠熱田兵器製造所）が発足しました。敷地の造成には、新堀川（精進川）の浚渫土砂が使用されました。

当時の航空機のプロペラ（愛知時計電機株式会社）

参考ｆ_地歴に関する資料

こうした"木材"にまつわる産業の系譜を担った人物として、"材木屋惣兵衛"がいます。元禄初期から材木商を営み、後に尾張藩の御用商人となり、代々、惣兵衛を名乗りました。八代目の惣兵衛は、一時「白鳥貯木場」の払い下げを受けたり、愛知時計や日本車輌、名古屋瓦斯など主要企業の創立にも多くかかわるなど、熱田ともゆかりの深い人物です。

自動車よりも先に航空機が実用化されたのは、当時の富国強兵政策の結果ですが、昭和の初め、航空機に次ぐ有望産業として自動車に着目した「名古屋（中京）デトロイト構想」というものがあり、昭和7年（1932）に、この地の企業が中心となって共同で制作した国産初の乗用車は、「アツタ号」と命名されました。

残念ながら、当時の技術力や社会経済情勢では自動車産業創出の試みはうまくいきませんでしたが、この構想は、後にトヨタ自動車によって三河の地で引き継がれることとなります。

国産初の乗用車「アツタ号」（日本車輌製造株式会社）

産業の集積、貿易の進展に伴い、港の役割が重要性を増すにつれ、江戸時代から続く埋め立てにより内陸部に位置する「熱田湊」は、港湾機能を十分に発揮することができなくなりました。熱田の港（湊）は水深が浅く、大型船の接岸が困難だったのです。

明治40年（1907）、名古屋市は、愛知県が進めていた築港事業に絡み、熱田町側の反対を押し切る形で合併を進め、熱田は名古屋市に編入されました。「熱田港」は「名古屋港」と改称され、さらに南部臨海部や埋立地も名古屋市に編入されました。

これによって名古屋市は、臨海部を有する大都市となったのですが、長い歴史を有する「熱田港（湊）」は、長らく続いた主役の座を降りることとなりました。

明治末の名古屋港（写真に見る明治の名古屋）

翌明治41年（1908）、4区制の施行とともに熱田は南区に含まれることとなりました。そして昭和12年（1937）、10区制の施行により現在の熱田区が誕生しました。

同年、中小企業のものづくり支援を目的として、「名古屋市工業指導所」（現在の工業研究所）が、熱田区六番に設立されました。この後、長年にわたり名古屋の中小企業の技術革新を支えてきた工業研究所が熱田区に設立されたのも、熱田が産業の中心地であったことと関係があるように思われます。

名古屋市工業研究所

参考ｆ_地歴に関する資料

戦中、熱田は、空襲で大きな打撃を受け、その後の復興事業（土地区画整理）によってその姿を大きく変え、現在に至っています。

戦後、メーター類や自動車関連など企業の民需転換があり、六ツ野の軍工廠跡地も企業の立地や公園としての整備等が進みました。

また日本車両はじめ大規模工場の郊外移転が進む中、木材関連産業も例外ではなく、外材の輸入などの影響があり、郊外への移転が進みました。

江戸時代から400年近い歴史を誇った「白鳥貯木場」も埋め立てられることとなり、平成元年（1989）、名古屋市制100周年を記念して開催された「世界デザイン博覧会」の白鳥会場となりました。

白鳥貯木場の筏師たち（中部森林管理局）

デザイン博は、"ものづくり"の伝統を生かしながら、21世紀に向けて名古屋がもう一皮むけるにはどうすれば良いかを考え、"デザイン"（＝"意匠"(人が心に抱いた夢を、形にする営み)）というキーワードのもと、「ひと・夢・デザイン―都市が奏でるシンフォニー」をテーマとして開催されました。

そのメイン会場として、"木材を中心とする名古屋のものづくり産業発祥の地"ともいうべき「白鳥」の地が、奇しくも選ばれました。

135日間の会期中、白鳥、名古屋城、名古屋港の3会場合計で、入場者数延べ約1，500万人、白鳥会場には延べ約750万人の方が訪れました。

デザイン博白鳥会場（敷地の一部や堀川にまだ材木が見える。）

デザイン博白鳥会場

デザイン博の終了後、白鳥会場跡地は、名古屋国際会議場や白鳥庭園、公園などに整備されました。さらに名古屋学院大学も移転開学し、現在は、名古屋のコンベンションの中心、学問の場、市民の憩いの場となっています。

白鳥公園一帯（堀川）

参考ｆ_地歴に関する資料

白鳥公園（白鳥御材木場･御船蔵跡）（太夫堀）

また本年2月には、熱田白鳥の歴史や、日本の森林･林業の現状、木材のさまざまな利用方法などを学んでいただくことのできる中部森林管理局「熱田白鳥の歴史館」もリニューアル整備されました。豊富な写真や絵巻、映像、ジオラマ、体験等で、子どもから大人の方まで、楽しみながらご利用いただくことができると思います。

中部森林管理局「熱田白鳥の歴史館」

熱田の地が、名古屋の発展に果たした役割は、"ものづくり"の面でも極めて大きいと思います。

まだまだある熱田の魅力を発見、発掘し、発信していきたいと思います。

平成28年7月　熱田区長　浅井慎次

平成28年5月

"交流"、"にぎわい"のまち 熱田　<おもてなしの心>

先日、大変由緒ある「道標」のお引っ越しがありました。熱田区伝馬にある旧東海道の道標（寛政2年･1790建立）が事情により移転せざるを得なくなったところ、地域の皆さまのご尽力によって守られたものです。

この伝馬町西端の三叉路は、江戸時代、東海道と美濃街道（佐屋街道）の分岐点で、とても重要な場所でした。北へ行くと熱田神宮から名古屋城下、南へ行くと宮の渡しから桑名（七里の渡し）へ至ります。

三叉路の突当りには、かつて熱田神宮の摂社で「知恵の文殊さま」としても知られている「源太夫社」（上知我麻神社）がありました。

江戸時代、この場所は、往来する多くの人々でにぎわっていました。その様子は、尾張名所図会にも描かれています。源太夫社は戦後の復興事業のため、昭和24年（1949）に熱田神宮境内に遷座され、現在の地には別の場所にあった「ほうろく地蔵」が祭られています。

今回、道標の移転とともに、源太夫社に関する銘板の設置もあり、地域の皆さまによる植栽も施され、この度お披露目されました。

参考ｆ_地歴に関する資料

白鳥地区

ソーシャルメディアへのリンクは別ウインドウで開きます　ツイート　シェア　このページを印刷する
最終更新日：2020年6月19日

白鳥地区は、名古屋の歴史を物語る史跡や公園が点在しています。

かつての貯木場跡は、1989年（平成元年）に名古屋市制100周年を記念して開催された世界デザイン博覧会のメイン会場としても利用され、名古屋国際会議場を核とした「国際交流」の一面も兼ね備えています。

河川整備においては、これらの地域の特色を生かしつつ、公園整備や市街地再開発事業などの他の事業と連携しながら水辺空間の整備を進めました。

また、河川沿いには、遊歩道を整備し、散策できるようになっています。

堀川端プロムナード

白鳥プロムナード

千年プロムナード

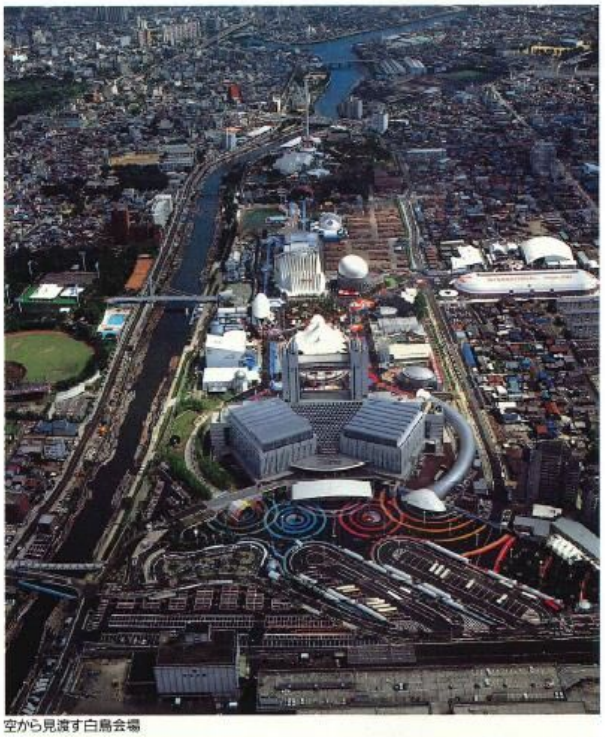
かつて白鳥地区には、材木を貯めておく貯木場がありました。

整備後は、公園と一体となった遊歩道と親水護岸が整備されています。

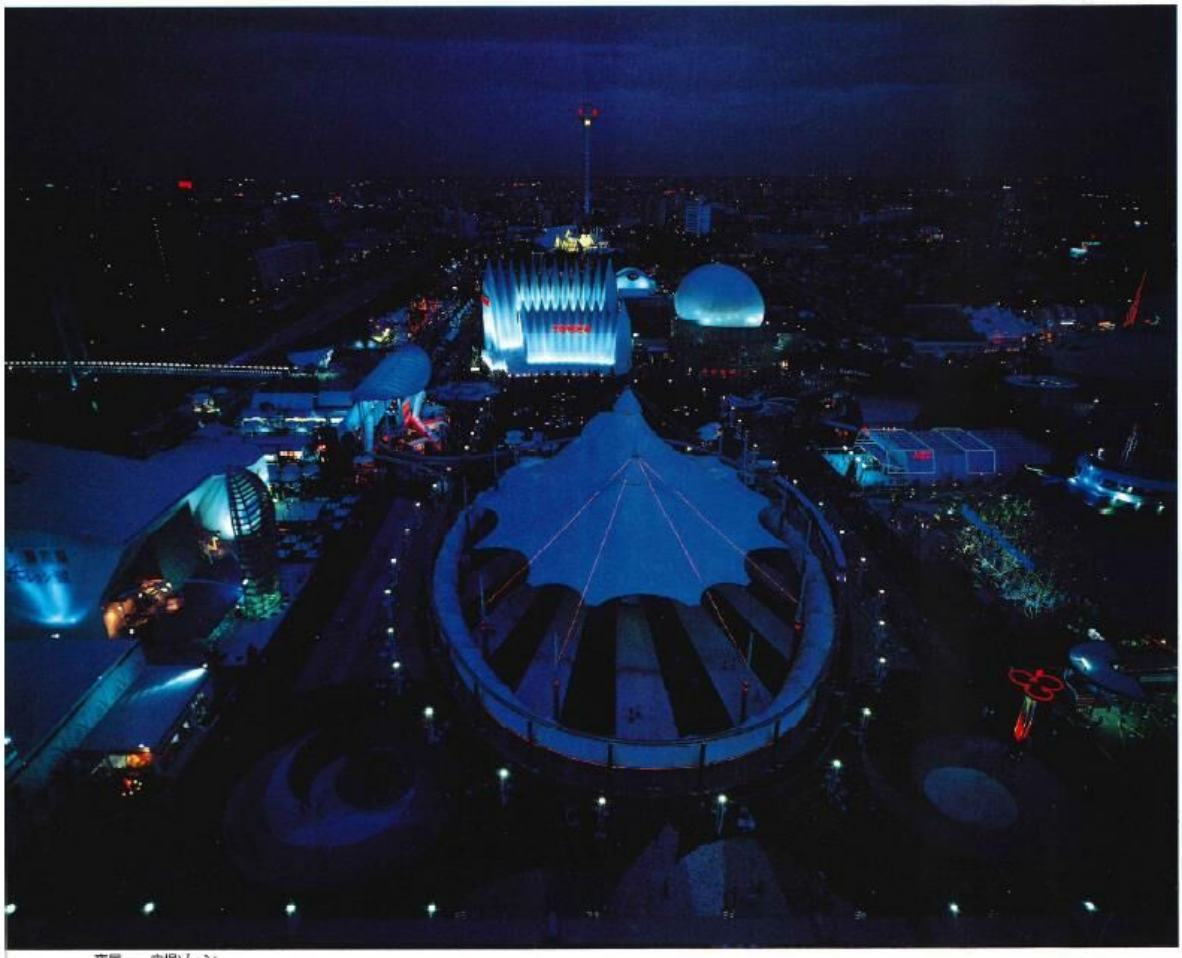
このページの作成担当
緑政土木局河川部河川計画課堀川総合整備担当
電話番号：052-972-2823
ファックス番号：052-972-4193
電子メールアドレス：a2881@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp
お問い合せフォーム

堀川の総合整備に戻る

参考ｆ_地歴に関する資料



空から見渡す白鳥会場



夜景――広場ゾーン

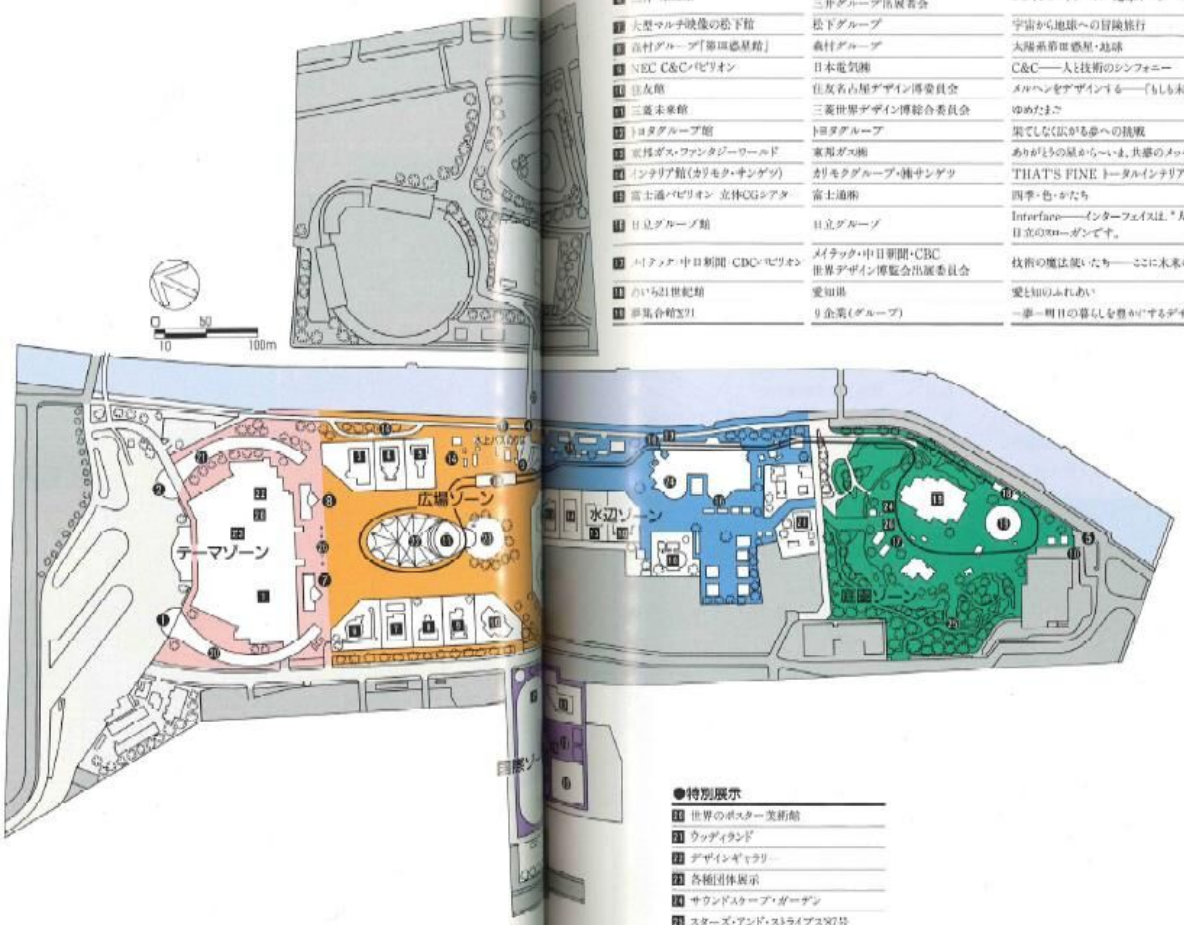
14

世界デザイン博覧会公式記録より_航空写真

白鳥会場配置図・出展一覧

参考ｆ_地歴に関する資料

区分	名称
ゾーン名	テーマゾーン
	広場ゾーン
	水辺ゾーン
	庭園ゾーン
	国際ゾーン
ゲート	❶ 正面西ゲート
	❷ 正面東ゲート
	❸ 西ゲート(団体専用)
	❹ 東ゲート
	❺ 南ゲート(出口専用)
	❻ 水上バスのりば
案内所等	❼ 総合サービスセンター
	❽ 北サービスセンター
	❾ 東サービスセンター
	❿ 南サービスセンター
ステージ	⓫ しろとりステージ
売店・飲食ゾーン	⓬ ワールドバザール館
	⓭ (国際ゾーン)
	⓮ リバーサイドショップ
	⓯ グルメの森
	⓰ (太夫堀畔)
	⓱ (庭園ゾーン)
遊具等	⓲ ポッカライナー
	⓳ パロマタワー
その他	⓴ ドリームチューブ
	㉑ ドリームコロネード
	㉒ しろとり広場
	㉓ オアシス広場
	㉔ 太夫堀
	㉕ 日本庭園
	㉖ 創造の柱
	㉗ 熱田記念橋



パビリオン名	出展企業(団体)名	テーマ
❶ テーマ館	開世界デザイン博覧会協会	ひと・夢・デザイン——都市が奏でるシンフォニー
❷ 外国館	25ヵ国(地域)44団体(企業)	デザインツアー・デザインリビング——夢創(ゆめづくり)空間——
❸ ホワイトミュージアム	中日新聞社・東海テレビ放送・フジパングループ・ホワイトミュージアム実行委員会	「ひと」と「美」の新しいふれあい
❹ ―あなたも海の冒険者―NTTチャレンジ館	日本電信電話㈱	人間・自然・技術の新しい共存――人間の英知、チャレンジ
❺ 光シアター	中部電力㈱	光の国がやってきた
❻ 三井・東芝館	世界デザイン博覧会三井グループ出展者会	フライング・ドリーム＝地球オペラ ～ポール・マクレディの夢～
❼ 大型マルチ映像の松下館	松下グループ	宇宙から地球への冒険旅行
❽ 森村グループ「第四惑星館」	森村グループ	太陽系第四惑星・地球
❾ NEC C&Cパビリオン	日本電気㈱	C&C——人と技術のシンフォニー
❿ 住友館	住友名古屋デザイン博愛員会	メルヘンをデザインする——「もしも未来」の友情と冒険
⓫ 三菱未来館	三菱世界デザイン博総合委員会	ゆめたまご
⓬ トヨタグループ館	トヨタグループ	果てしなく広がる夢への挑戦
⓭ 東邦ガス・ファンタジーワールド	東邦ガス㈱	ありがとうの星から～いま、共感のメッセージ
⓮ インテリア館(カリモク・サンゲツ)	カリモクグループ・㈱サンゲツ	THAT'S FINE トータルインテリア——豊かな生活文化の広がり
⓯ 富士通パビリオン 立体CGシアター	富士通㈱	四季・色・かたち
⓰ 日立グループ館	日立グループ	Interface——インターフェイスは、"人と技術の理想をめざす"日立のスローガンです。
⓱ メイテック・中日新聞・CBCパビリオン	メイテック・中日新聞・CBC世界デザイン博覧会出展委員会	技術の魔法使いたち——ここに未来のアートが集まる
⓲ のいら21世紀館	愛知県	愛と知のふれあい
⓳ 夢集合館'91	9企業(グループ)	―夢―明日の暮らしを豊かにするデザイン

●特別展示

20	世界のポスター美術館
21	ウッディランド
22	デザインギャラリー
23	各種団体展示
24	サウンドスケープ・ガーデン
25	スターズ・アンド・ストライプス'87号
26	なごやか協社展

世界デザイン博覧会公式記録より_白鳥会場配置図

参考ｆ_地歴に関する資料

名古屋国際会議場増築工事時地中障害物状況

No.

地中障害物撤去

No.

同上

No.

同上

名古屋国際会議場増築工事時地中障害物状況

No.

地中障害物撤去状況

No.

同上

No.

同上
エフレックス管集積

A-EGW

参考ｆ_地歴に関する資料

名古屋国際会議場増築工事時地中障害物状況

前述の写真に撮られている障害物は、名古屋国際会議場増築工事時に処分されている。
世界デザイン博覧会会場として利用された以降、掘削していない部分においては、同様の障害物が埋設されていることが予見される。